

山の学校「学習レポート」

福島県立あさか開成高校 3年相楽碧姫

10月21日(土)

【参加者】 27名
NTT労働組合 9名
あさか開成高校 10名
国立環境研究所 3名
しんせい 5名

9:45	山の農園到着
10:00	防災学習 担当 あさか開成高校 ≪屋外≫アイスブレイク 火起こし・ポリ袋調理(炊飯・郷土食・蒸しパン) ≪室内≫語り部活動「震災の記憶と教訓を次の世代へ～震災を知り、ふくしまの今を国内外に発信する」
12:00	交流ランチタイム
13:00	フィールドワーク 農園の自然から考える共生 「林森と持続可能な地域づくり」 国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 中村氏
14:45	休憩
15:00	「福島原発事故による環境放射能汚染の実態を知る」国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 林誠二氏 ※金曜日の放射能測定の結果も報告振り返り
16:30	解散

【アイスブレイク】

「各クラスに分かれる前に、全員で楽しめる時間をつくった方が良いのでは？」という意見があったため、バースデーラインを行いました。※バースデーラインは参加者が会話をせずに、誕生日順に並ぶゲームです。しんせいの丸山さんが誕生日だったので、みんなでハッピーバースデーを歌い盛り上りました。



【防災学習】

2022年12月に「震災の記憶と教訓を次の世代へ」をテーマに広島・岡山・神戸・京都・大阪を回った研修の発表を行いました。研修を通し、「緊急時は地域での助け合い（共助）」が、とても重要であることを改めて確認したことを伝えました。社会人からは「震災の記憶がない若い世代が『語り部』となって、伝承していくことで、未来へバトンが渡せる」というコメントを頂きました。



また、研修の発表を行う前に、みんなで災害時の食事づくりを行いました。※ポリ袋で炊飯やまんがこ（すいとんのような郷土食）、キャラメル味の蒸しパンをつくりました。災害時に水や電気が制限され、冷たい食事が続いてもこの調理法を知っていれば、簡単に美味しく心身に温まる食事を摂ることで元気が出ます。みんなで一緒に作ったまんがこは格別なおいしさでした。屋外で、火をおこして薪で調理をすることがないので、「キャンプみたいで楽しい」とみんな大喜びでした。

【フィールドワーク】

午後は、国立環境研究所の研究者の講座で、森林の混み具合調査を行いました。調査は、農園周辺の山の中へ入り、中心木とその周辺の木々の太さを調べ、平均直径や木の高さを計算することで混み具合の指数を割り出しました。慣れない足場に気を付けながら、社会人と高校生が力を合わせて行いました。気温は低めでしたが、汗ばむくらい体力を使いました。想定より混んでいる現状を知り、森林管理の難しさやその必要性も学ぶことができました。



【座学】

フィールドワークに続き国立環境研究所の研究者による講座では、「森林と持続可能な地域づくり」というテーマで実際に取り組んでいる会津三島町でのゼロカーボンを目指す調査研究のお話を伺いました。森林資源とどう向き合っていくべきか、私たち若い世代も真剣に考えたいと思います。

さらに、放射能に関する講座でも、震災からの線量の変化や前日に線量測定をした農園周辺の状態の詳しい解説を伺うことができ、数字が表す意味を理解することができました。



【振り返り】

最後に全員で振り返りを行いました。私たち3年生は受験を控え、今回が最終回となります。コロナ禍の中でも、山の学校を通して様々な社会人の方と交流することができました。たくさんの方が経験ができた感謝の気持ちを伝えました。これからも一緒に活動している1年生、2年生が山の学校を引き継いでくれると思います。

みなさん、今後もあさか開成高校をよろしくお祈りします。

